

# 園長先生の子育てひろば

令和8年6月

## 「発話」と「発語」

園長 堀田あけみ

お子さんの成長の過程で、言語の獲得は気になることの一つです。だいたい生後1年で一語文、2年で二語文が見られることが、発達の目安になります。言語に関しては全体に女子の方が早く、男子は遅れがち。大きくなって言語系のデータは、男子より女子の方が質量ともに高い数値を示し、圧倒的と言って良いほどの差を示すこともあります。

発達全般に言えますが、言語に関しても個人差はとても大きなものです。だから、「うちの子は、ことばが遅いのでは？」と思っても、まずは焦らないことです。でも、ただ待っているのではなく、適切なインプットを心がけましょう。「いい教材はありますか？」「これを見せたらいいという動画はないですか？」「どこに相談に行ったら良いでしょうか？」となる前に、家族が丁寧な言語コミュニケーションをとることを心がけます。話しかけても反応がはかばかしくないからと言って、「話しかけても仕方ないかな」と働きかけを減らしてしまうと、良い結果には結びつきません。

実は、ことばの発達で大切なのは時期よりも順序です。言語の獲得は「聞く」→「話す」→「読む」→「書く」の順です。会話がないのに、文字の書かれたブロックで正しい単語を並べたりすると、「喋らなくても、わかってるから大丈夫かな」と思ってしまいがちですが、早期に違う順番で言語を獲得するのは、ことばが単純に遅れるよりも深刻な原因に由来することが多いです。私自身、脳に障害を持つ子の親で、これで脳の障害に気づきました。

人が複雑な言語を発達させた目的は、まず「コミュニケーション」のためです。言葉の機能は、自身の思考を言語を媒介にして深めることでもありますし、自分だけのためのことばもあります。誰にも見てほしくない日記を書いたり。でも、それらは成長してからのことで、乳幼児のことばの目的はコミュニケーション。だから、早くにことばを発すると、ひとまず安心してしまいがちですが、それが単語を口にしていただけの「発語」なのか、誰かに伝えるための「発話」なのかが大きな問題になります。幼児が「わんわん」と言ったとき、犬にラベリングしているだけの場合もあれば、「おかあさん、犬がいるよ」「犬だよ、大きいね」と言っている場合もあります。前者が単語を発語している一方で、後者は一語文を発話しています。後者であれば、子どもの様子を観察したとき指さしをしているとか、反応を待っている様子があるとか、会話をする仕草が見られるはずですが。

いろいろ考えて、やっぱり相談したい、と思ったら専門家を受診しましょう。手近な機関としては、地域の保健センターや、医療機関があります。児童福祉センター等の専門機関より心理的なハードルが低いでしょう。他の専門家の支援や治療が必要だと判断されたら、ちゃんと繋いでもらえます。周囲の人に相談するのは、お勧めできません。多くの場合、受診が必要なレベルだと思っても、よほど親しくない限り、考え過ぎだと言われてしまいます。最初に書いた通り、言語については男子の方が遅れがちなので、「男の子はこんなもの」と言われるケースも多いです。

心配し過ぎない、でも、正しく心配する。そして早くに解決の道筋を見る。これは、子育てにおいて、あらゆることに共通して言えることです。子どもはあっという間に大きくなるので、悩んでいる時間はもったいない。行動する勇気を持ちましょう。